PHP新書「地震予報」読者の皆様へ
「№1778 長期継続大型地震推定前兆変動」原稿校了後の前兆変動変化についての続報

八ヶ岳南麓天文台　電離層モニター観測所　代表：串田嘉男
Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1　研究室 FAX 0551-38-4254　jishin-yohou.com

続報 № ４４９
2026. 05/23（土曜）16：00 発表

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、№1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。№1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。№1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様に№1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2 に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。№1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。
※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

約17年11ヶ月継続となる №1778 長期継続前兆変動 続報
5/27±3 対応地震発生の可能性否定困難だが A5・CH34 共に静穏化後に変動有

図１

Stage-30
Tmap=252日
CH20・26他
3/7±2を示す

→ ***Stage-31***
Tmap=5.2日
3/3.7 初現
3/6.3 極大
CH17・26
3/11±2を示す

→ ***Stage-32***
Tmap=1.9日
3/10.5 初現
3/11.5 極大
CH26
3/13.4を示す

→ ***Stage-33***
Tmap=3.0日
3/13.4 初現
3/15.1 極大
CH26
3/18.5を示す

→ ***Stage-34***
Tmap=46日±3
3/18.5 初現 CH34
4/10.8 極大
A5,CH34,CH17,CH26
5/27±3 を示す

※№1778は地震発生が推定された時期（通常の場合は地震発生）に次の変動の極大や初現が出現し次Stageに移行する現象が17年8ヶ月の間に30回続いた 。数百日単位のStageが本年３月からは数日単位で同様な変化でしたが、Stage-34は46日±3 となる可能性を示す模様。

静穏化認識後に変動があるのは余震の多い規模大の地震であるからか？ または認識間違いか？

◆図２は秋田観測点のデータで、上基線がA2、下基線がA5です。A5の特異変動は、5/12.8静穏化の可能性認識で、これが正しい場合、5/16～5/21期間の変動は直前変動の可能性（中心＝5/18.5）認識となります。5/21.0からは完全静穏基線となりました。日々の基線変動を比較するため、A2基線を上側に表示してあります。5/21は秋田観測点のどの観測装置も日周変化が小さい状態です。仮に5/18.5が直前変動である場合は、極大 4/3.5 に対し、Tmap:Tpa=6:1 経験則を使用しますと、5/27.4±3 発生の可能性が示唆されます。しかし、図２の基線A5の右端〇印で囲んだ部分には、再び特異変動が現れています。

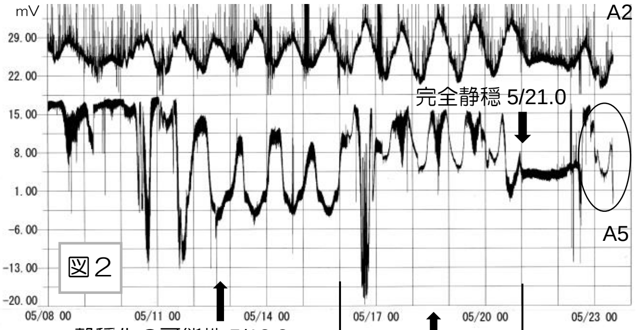
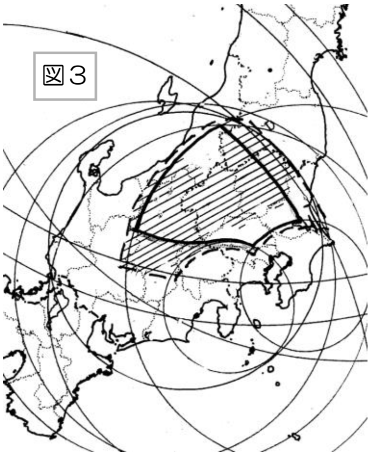


図２

◆CH34も前号で報告しました5/15.5静穏化の可能性以降も時折基線が若干太く変化する変動が現れています。仮に前号での各静穏化認識が誤りで、A5は5/21.0が静穏化、〇印以降は直前変動であると仮定した場合は、対応地震は6/6±3の可能性となり、その場合には、本日未明までにCH34が静穏化することが計算されます。しかし明らかな変化は認められませんでした。従って、静穏化認識後にも変動が観測されているのは、1995年1/17の兵庫県南部地震M7.3や2018年9/6の胆振東部地震M6.7の観測例同様、余震の多い規模の大きな地殻地震の特徴として、計算上の静穏化以降も変動が観測される過去例と同じか、または現在の変動認識理解が誤りであるかのどちらかとなります。

図３


※CH26は櫛歯変動も5/19に静穏化
現在は完全静穏基線を記録しています。

●推定領域：図３の点線領域内＝大枠推定領域
図３の太線領域内＝可能性が考えやすい
図３の斜線領域＝火山近傍が考えやすい

●推定規模： M8.0±0.3
M7.7～8.0の可能性考えやすい
または複合地震
複合の場合はM7以上地震の断層長Lkmが
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.)式で110～150km
程度となる様な複合地震活動の可能性
（例：M7.1±0.3＋M7.3±0.3 等）

●推定時期：5月27日±3（特に5/27～5/30）
※但し、静穏化認識後の変動が余震の多い地震であるために出現している場合に限る。しかし、現在の認識が誤りである場合は5/27発生はあり得ない。今後の観測で再検討予定

〇推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震
〇推定発生時刻：8時30分±2 or 18時±3
（複合地震の場合は当てはまらない場合有）

※今後、噴火型変動が複数日観測された場合は、対応地震発生に伴い、震央に近い火山で噴火の可能性あり。現状は観測されておりません。
※過去例の無い17年以上もの長期継続前兆変動であるため解析が非常に難しく、推定に誤りがある可能性も否めません。その場合はお許しください。

C) Copyright 2026 YSBO 八ヶ岳南麓天文台